

さぎそう

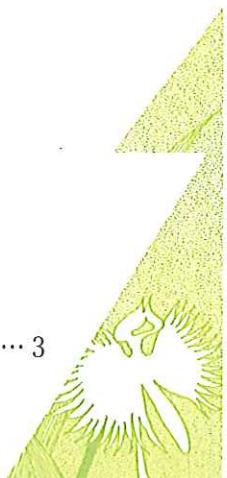
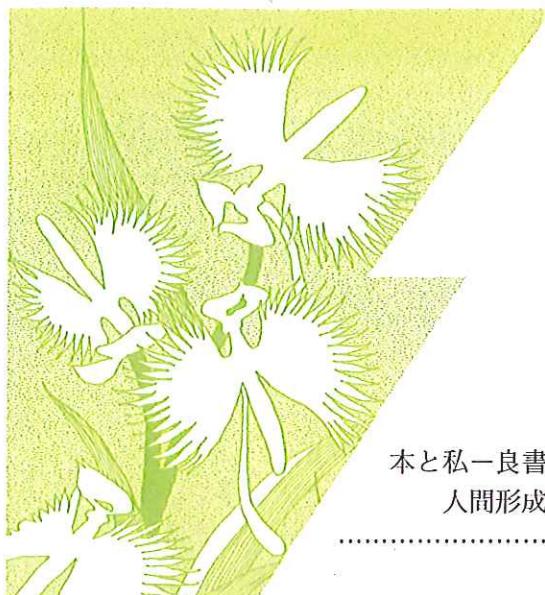
姫路獨協大学附属図書館報

No.30

2006.1

目 次

本と私－良書は 人間形成のための宝物	図書館の道案内 18	3
..... 1	百科事典での一人遊び	7



NEWSLETTER OF H.D.U. LIBRARY

本と私－良書は人間形成のための宝物

附属図書館長 家 正 治



今も営業しているであろうか。京都の加茂川と高野川が合流する近辺は出町と呼ばれているが、その一画にあった古書店は本の質屋も兼ねていた。大学(院)生時代、しばしば利用したものである。

洋書や全集を持っていくと、定価のほぼ3割の金額を貸してくれ、その多くは酒代に消えた。店主は無口で厳つい顔をした親父であったが、質札をなくした時には保管庫の倉の中に入れてくれ、一緒に探してくれました。本を質草にできたのも、京都の街が学生の街でもあったからだと思っている。また、本に係わる想い出として、40年近く前の頃、神戸の元町通りにあった古本屋の店先に、どれでも10円と書かれた書台の中にリットン報告書を見出し驚喜したことである。同報告書とは、1931年の柳条湖事件に関して国際連盟理事会決議に基づいて設けられた英國のリットン卿を委員長とする調査団が「満州」における中国の主権を確

認し、日本軍の撤収を勧告するという内容のものである。報告書は、42対1で採択されると松岡全権は会場から退席し、日本は連盟を脱退し国際社会で孤立化をまねく契機となったものである。嬉しさで顔がゆるむのを必死で押さえ、平静さを装って支払いを済ませるや店を飛び出したことを覚えている。同報告書は日本語と英語の双方から成っていたが、当時それが市販されていたことも驚きであった。その頃はまだ統制が緩やかで市販もできたのであろう。

つぎに、本との係わりで大きな位置を占めたものの一つは学校で使用した教科書、とりわけ国語のそれであった。国民学校の2年生で終戦となつたが、その1年生の国語の教科書は「アカイ アカイ アサヒ アサヒ」で始まる国定教科書であった。当時の筆者は、上級生の指揮の下に松根油を作るために松の根掘りに頑張っていた軍国少年であった。戦後、裁断されていない4頁立てのゲラ刷りを数枚教科書として渡された時には、幼心にも日本は戦争に負けたことを実感した。また、中学校では、國木田独歩、森鷗外、夏目漱石、芥川竜之介などの名作のさわり



左：権利のための闘争 2階指定図書コーナー 321/JH//家
右：永遠平和のために 2階指定図書コーナー 134.2/KA//家

を教科書で読み強い感動を覚えたものであった。また、高等学校では、古文の教科書で、平家物語、枕草子、源氏物語を読んだことも印象深く記憶している。また、大学時代に使用された教科書の中でとくに感銘を受けたものは、大学2年生で履修した「政治学基礎演習」で輪読した毛沢東の『矛盾論・実践論』であった。その時まで中国革命は半植民地的状況の下にあった中国の人々を解放した偉業と漠然と考えていたが、同書の熟読を契機として同革命についての書物を読み漁った。中国革命は中国人達にとって苦難の闘争であったが、当時の自分にはロマンに満ちた燐然と輝く清く正しく美しい歴史の事象として自分の脳裏に深く刻み込まれることとなつた。

ところで、教科書以外の図書についてであるが、大学進学以降、社会科学を専攻することになったことから、読む書物も自然とその方面的ものがウェイトを占めることとなった。その中で、大部の書ではないが筆者がしばしば本を伏せて沈思した書物のいくつかを紹介・推奨したいと考える。一つは、近代最初の平和論の古典であるエラスムスの『平和の訴え』（1517年）である。彼は宗教改革前夜のヨーロッパを覆った悲惨な戦禍を前にして、「平和の神」に語らせることによって大胆な批判を展開し、一般民衆の自覚と協力を求めた刮目に価する書物である。第2に、ラス・カサス著の『インディアスの破壊についての簡潔な報告』（1552年）をとり

上げたいと思う。スペイン人がインディアスに赴いてそこで行われた虐殺や悪行の数々の事実について報告されている。ここまで人間は残虐になれるのか、それもその悪事はなにも人類の有史以前のことではなく、500年ほどの前のことにすぎない。スペイン人の蛮行とインディオの受けている悲惨な状況を報告したラス・カサスの勇気に感嘆せざるをえない。また、カントの『永遠平和のために』（1795年）をお奨めしたい。今から200年以上も前に、すでにカントは国家間の永遠平和のための予備条項の第3条項として、「常備軍は、時とともに全廃されなければならない」ことを掲げた。しかし、200年後の今日においても常備軍は全廃されるどころかかえって増大している。さらに、当時には無かった核兵器をはじめとする大量破壊兵器が登場するにいたっている。目ざましい科学技術の発展に対比して、社会科学における人間の思考の発展の遅れは甚だしいと言わざるを得ない。さらに、筆者の座右の書であるイエーリングの『権力のための闘争』（1894年）をとり上げておきたい。同書の冒頭の「法の目的は平和であり、それに達する手段は闘争である」との文言は筆者の座左の銘としているものである。権利のための闘争は権利者の自分自身に対する義務であるとともに権利の主張は国家共同体に対する義務であると説く同書を十分熟読吟味する必要があるのではないかと思っている（なお、以上の4冊は岩波文庫に収められている）。

ところで、良書を読むことは人間の啓発と成長にとって大きな位置を占めている。それも精読・熟読し、著者の意図や行間を読み取ることが肝要であると考えている。筆者の尊敬する先生が執筆された校正段階のゲラをお願いして読ませて頂いたことがある。「400年の月日が流れただ」の文章を「400年の月日は流れただ」へと変えるために朱を入れられていた。ここまで文章を推敲しておられるのかと驚いたものである。また、最近ゼミの報告もインターネットにのみ依拠する傾向が見られるが、それだけでなくぜひとも良書を読破する努力を傾けて頂きたいと思っている。
(いえ まさじ)

図書館の道案内 18

— 新「図書館蔵書検索システム」 —

姫路獨協大学附属図書館(以下「図書館」)では2005年9月に図書館蔵書検索システム(以下「OPAC」)を更新しました。これにより、図書館内に設置している検索専用パソコンとホームページ上で公開している検索画面が統一されるとともに、検索機能の強化を実施しました。今回は、この新しくなった「OPAC」についてご紹介します。

△概要

OPAC専用パソコンは、図書館の1階カウンター横に4台、2階カウンター横に2台、及び地下書庫内に1台設置しており、図書館の開館中いつでも利用できます。さらに、図書館ホームページ内「蔵書検索」ページでOPACを公開しており、こちらは図書館の開館時間にかかわらず、インターネットに接続されたパソコンから24時間365日いつでも利用することができます(メンテナンス等のため一時的に休止する場合があります)。

なお、ホームページのURLが今回のシステム更新に伴い変更となりましたので、下記の通りお知らせします。

- ・ホームページ(トップページ) : <http://lib2.himeji-du.ac.jp/>
- ・「蔵書検索」ページ : <http://lib2.himeji-du.ac.jp/opac.html>

△検索手順

標準的な検索手順を画面のサンプルでご説明します。通常は【図1】のように「キーワード」を入力するボックス等が表示されている画面(「標準検索」画面)が表示されているので、ここに検索したい言葉(書名、著者名等)を入力し、「検索」と書かれたアイコンをクリックします。

[図1]



検索結果が【図2】のように一覧表示されます（該当データが1つも無い場合は、見つからなかった旨表示しますので、別の言葉で再度検索してみてください）。この一覧の書名の所をクリックすると、その資料の詳細データが表示されます（【図3】）。

【図2】 <http://ib2.himeji-du.ac.jp> - 検索結果一覧 (Japanese) - Microsoft Internet Explorer

件名	著者名	年月	蔵書記号	状況
1. □ 書 三島由紀夫著「新日本文学」(1970)	三島由紀夫著	1970	0001	貸出中
2. □ 書 金剛寺・秋水・三島由紀夫著・宇野正等著・柳原白鶴著・井岡に日本語	三島由紀夫著	1970	0002	貸出中
3. □ 書 金剛寺・秋水・三島由紀夫著・柳原白鶴著・井岡に日本語	三島由紀夫著	1970	0003	貸出中
4. □ 書 金剛寺・秋水・三島由紀夫著・柳原白鶴著	三島由紀夫著	1970	0004	貸出中
5. □ 書 金剛寺・秋水・三島由紀夫著・柳原白鶴著・井岡に日本語	三島由紀夫著	1970	0005	貸出中
6. □ 書 三島由紀夫著「三島由紀夫著」(1970)	三島由紀夫著	1970	0006	貸出中

【図3】 <http://ib2.himeji-du.ac.jp> - 検索結果一覧 (Japanese) - Microsoft Internet Explorer

件名	著者名	年月	蔵書記号	状況
1. □ 書 三島由紀夫著「新日本文学」(1970)	三島由紀夫著	1970	0001	貸出中

蔵書登録番号: 0001 著者名: 三島由紀夫 著者登録番号: 0001 年月: 1970 蔵書記号: 0001 状況: 貸出中 預り日: 予約

出版者: 三島由紀夫著「新日本文学」(1970)

刊行年: 1970

蔵書登録番号: 0001 著者名: 三島由紀夫 著者登録番号: 0001 年月: 1970 蔵書記号: 0001 状況: 貸出中 預り日: 予約

本文言語コード: 日本語

著者登録番号: 0001 著者名: 三島由紀夫 著者登録番号: 0001 年月: 1970 蔵書記号: 0001 状況: 貸出中 預り日: 予約

キーワード: 三島由紀夫

その資料が図書館内のどのコーナーに置いてあるかはこの詳細画面で知ることができます。また貸出し中、予約中の場合もこの画面に表示されます。つまり、この画面に表示している情報を見ればその資料を見つけることができる（または利用可能かどうかがわかる）ということになります。

[図3]に“件名標目等”という項目があります。これをクリックすると、同じ主題で書かれている資料を検索することができます([図4])。「〇〇について書かれた図書」を調べる場合の手段の一つとして活用してください(ただし、この件名標目を持たないデータもあります)。

[図4]

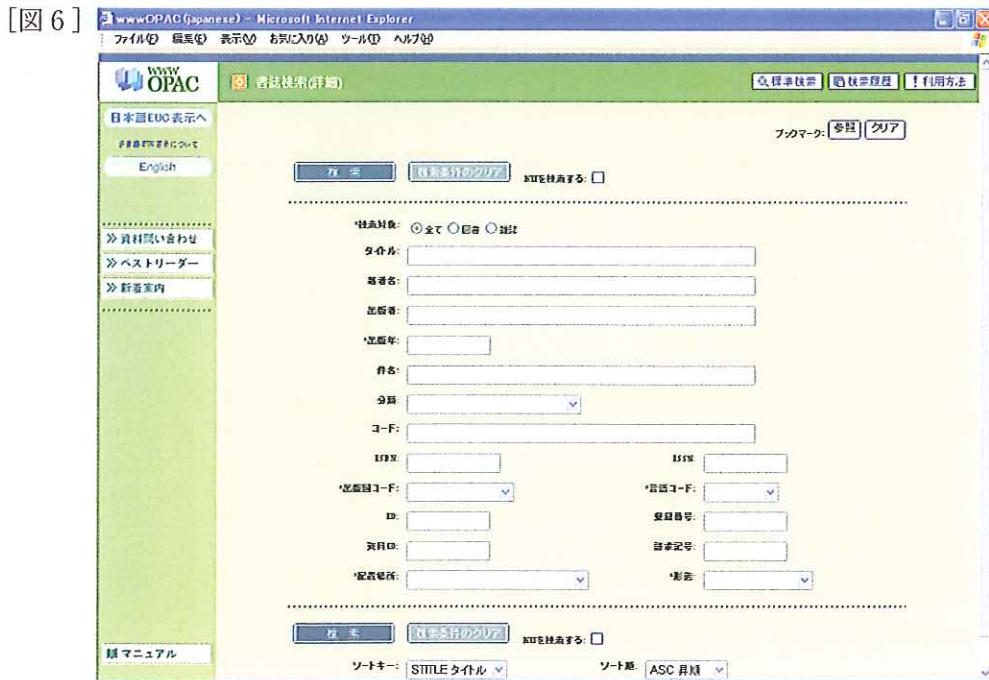
件名	著者名	出版年
三田由紀子著「内閣官房」	三田由紀子	2001.11

新OPACでは中国語の簡体字や韓国語のハングルを表示、及び検索語として入力することができます([図5])。この機能は使用するパソコンがこれらの文字に対応している場合に限ります。お使いのパソコンでこれらの文字がうまく表示できない場合は、[図1]左上の「日本語EUC表示へ」と書かれたアイコンをクリックしてください。日本語EUC表示ではこれらの文字は代替コードで表示されます。

[図5]

件名	著者名	出版年
三田由紀子著「内閣官房」	三田由紀子	2002
三田由紀子著「内閣官房」	三田由紀子	2002
三田由紀子著「内閣官房」	三田由紀子	2001

[図1] で右寄りにある「詳細検索」アイコンをクリックすると、タイトル・著者名・出版者を初めとする多くの項目で検索ができる画面が表示されます([図6])。ここでは「標準検索」に比べて複雑な条件指定で検索することが可能ですが。ただし項目名の冒頭に「*」の記号が付いている項目は、タイトルや著者名等との組み合わせでのみ使用することができます。



また、入力欄の右端に「▼」記号の付いている項目（分類・出版国・言語等）を使用する場合は、入力欄をクリックすると選択肢がリスト表示されますので、この中から検索キーを選んでください。

各画面とも右上端に「利用方法」というアイコンがあります。利用方法が不明の場合はこのアイコンをクリックしてください。各画面に対応した説明画面が新しいウィンドウで開きます。

資料収集に、また調査研究に、新OPACをご活用ください。

百科事典での一人遊び

外国語学部日本語学科 教授 神 保 全 孝



1980年代前半、御幸通の一角にまだ店を構えていた丸善の二階の片隅に、申し訳程度に洋書が置かれていた頃、「播州では嫁入道具の一つに百科事典を持たせるものですよ」と購入を勧められたことがある。当時、京阪神間には住めなくなって、やっとこさ姫路に住居を定めたばかりであった。「播州姫路に住むことになった」と告げると、同僚の一人には、「『文化果つところ』といわれているのに」とからかわれたことだったので、「嫁入道具に百科事典」という取り合わせに播磨の風土の物心両面での豊かさを思い知らされたのであった。

顧みれば、キエルケゴール研究の大先達和辻哲郎先生をはじめ、柳田国男、辻善之助、三木清等々、畏れ多い大先生方の名が目前に迫ってくるではないか。現在の姫路城を築いた池田輝政は生前「姫路宰相百万石」と呼ばれた、という記事も今回調べ回っているうちに目についた。

その百科事典が本学図書館参考図書のコーナーに日本語から始まって、七ヶ国語の大百科事典群が揃っている。今春から加わったのは『韓國民族文化大百科事典 28巻』で、背表紙の金文字のハングルが鮮やかである。

ここで先ず我々姫路獨協大学に縁（ゆかり）のある我々と百科事典との浅からぬ因縁を思い起こしておくべきであろう。

Encyclopediaという英語を「百學連環」との訳語で講義されたのが、誰であろう、獨逸學協會学校初代校長も務められた西周先生であった。

明治三年十一月から毎月六回講義されその筆記本が活字になったもの、及び西先生の覚書の写真版とは、幸い『西周全集 第四巻』で読むことができる。（それぞれ 5頁～294頁までと 297頁～587頁まで）又、この機会に、「百學連

環 Encyclopedia 第一総論 introduction」の語り口を再録しておこう。誰かが、又、いつの日か、この西周全集を手にとり繙かれる機縁ともならんことを念じつつ。

「英國のEncyclopediaなる語の源は、希臘のΕγκυκλιος παιδεια なる語より來りて、即其辭義は童子を輪の中に入れて教育なすとの意なり。故に今之を譯して百學連環と額す」「童子を輪の中に入れて教育なす」とは、微笑ましい言い方であるが、ひょっとすると“well-rounded education”（包括的教育）を意味するギリシャ語の英訳“circular education”の苦心の訳でもあろうか。

以上の引用から、encyclopedia には、二つの意味があることがわかる。

一つはその時代迄の学問・知識の全体がそこには込められているということであり、今一つはその学問・知識の全体を我々に教育する働きを持っている、ということである。我々は強制されることなく、自由に、encyclopediaの存在それ自体から教育を受けることができる、のである。

時代の最先端の学問・知識なら電子メディアで、自由自在にキャッチできる、とうそぶく人はいるだろう。わたしには、それができないので、一つのテーマ・項目について、日本語で読める百科事典三種の索引をまずのぞいてから関連項目の巻を夫々何冊か書棚上、机上に繰り広げて読み比べる。時には英・独・佛語の百科事典ではどう表現されているかものぞき見る。それらを正しく理解する為には更に各国語辞典をはじめ哲学・倫理・宗教・歴史辞典まで拡げることになる。いつの間にか10冊、20冊と拡げているが、こうなったのは、実は一般教育部が解体されて、日本語学科に配属になったせいもあり、お蔭でもある。

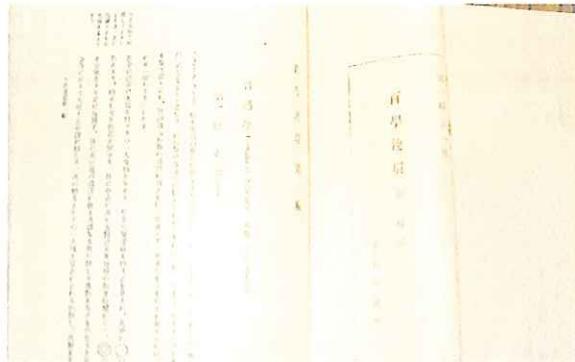
留学生諸君と共に日本語そのものを学んだり、日本文化や日本人の宗教心についての講義

が留学生諸君をも相手にすることになると、齡(よわい)「従心」を数える老人も一新任教員も同然である。自分が話さねばならぬ言葉やテーマが、全知識体系の中で、どういう意味があり、どういう位置にあり、留学生諸君にも理解してもらうには、どういう表現が可能かを確認する必要がある。それにどれだけ成功しているかは別として、棚上、机上に百科辞典から始まって参考図書類を次々と拝げざるを得なくなったのである。それを許して呉れている本学図書館ほど有難い空間を、これまでの人生で経験したことはない。『許して呉れている』と思い込んでいるのは、筆者の一人よがりで、『厚かましい老害人』だと苦々しく思われているのかも知れないが、あと数ヶ月お許し頂きたい。

想像上の動物カッパ(河童)に見立てられることもあるカワウソ(獺)は獲物の魚を食べる前に岩の上に陳べる、とか。《礼記、月令》中にすでに、「孟春の月(=正月)に、~獺、魚を祭る」と記されているところから獺祭という熟語が作られ、森鷗外や正岡子規は、その住居を獺祭書屋と名づけたことを知る人も居られるだろう。

カワウソが獲物の魚そのものの靈を祭っているとみることもできるが、獲物を先ず天にお供えてしいると見た漢字を作り駆使した中国人の、宗教心の一端がうかがえそうな熟語である。

そんな信仰心の厚いカワウソや古代中国人に対して、おこがましい限りだが、いつの頃からか私も百科事典等々を拝げ回っている自分がカワウソと同じことをしているように思えてきた。講義の為に図書を拝げさせてもらっているだけだが、本そのものが、私が手にとって目的のページを拝げるのを待っていてくれるように思われる時もある。「待ってました!」といわれるかのような瞬間が度々経験されるのである。そこで学生諸君にも、姫路獨協大学でしか経験できない“一人遊び”を試みられんことを、お勧めしたい。



西周全集 第4巻

ここに8月10日付けで発行された900頁近い文庫本がある。A・J・ジェイコブズ著『驚異の百科事典男一世界一頭のいい人間になる!』とオーバーな表題と副題であるが、オルジナル・タイトルは「THE-KNOW-IT-ALL」で、昨2004年に発行されたものである。世界最大の百科事典「Encyclopedia Britannica」全32巻、6万5千項目、単語数約4,400万語を読み通した記録らしい。百科事典の楽しみ方の参考までに手にとって見られるがよろしかろう。

なお、蛇足ながら、又、百科事典で「百科事典」の項を見れば必ず言及されていることながら、天地万物に関する知識を集大成する営みは、いうまでもなく欧米人だけのものではない、ということを付記しておかねばならない。中国には古代ギリシャに由来するencyclopediaと同じ形ではないが、「類書」という形で天子の為に必要な情報知識を蒐集、分類、編集したものがあると紹介されている。

なぜなら、中国の天子は、「天地万物に通じていなければならないから」だというのが『国史大辞典 第十一卷』「百科辞書」の項での解説である。中国の文物を輸入し続けた日本にも勿論「類書」が江戸時代までにいくつか纏められていることを付記するだけで、それらに関する話は中国語学科の、又、本来の日本語学科の先生方の筆に委ねよう。

(じんぼう ぜんこう)